

44ftクルーザー「ELLE」で 初夏の淡路夢舞台へセーリングランチ。

3年前、インフィニット・ブルー号に別れを告げ、5隻目となった新クルーザー「ELLE」号とともに毎週末をヨットで過ごす「ELLE/Trente Yacht Club」のクルーたち。この日の航海予定は淡路夢舞台、イタリアンレストランヘランチをしに行こうと出航した。雨あがりの花々は色鮮やかで美しいに違いない。



三浦半島に係留していた「ELLE」の買取交渉に行ったのは木山さん。東京から70時間かかって須磨に届いた



淡路夢舞台のイタリアンレストランでワインを飲みながらランチ。左から増田尊紀さん、池田鉄さん、木山修さん、中西威夫さん、永井良明さん

水面に浜千鳥がゆれる

朝からどしゃぶりの雨、驚いてしまふ。天気予報は「晴れ」だったのに。でも「晴れ」を信じて須磨ヨットハーバーに向う。

まだ少し雨の残るハーバーを跡にあわたしい？ 出艇準備。増田さんは船首に木山さんが左舷にスキップパーは永井さん、ヨットハーバーを出てしばらくすると増田さんが風ぐあいを見ながらセーラーを張り、オートパイロットの進路を打ちこむ。出港と帰港のときだけは手動。それ以外はオートパイロットにしてのんびり海を眺め語りあうのが常だ。

水面に浜千鳥の群れが浮かぶのどかな光景に遭遇する。突然、海の色が濃くなって船の速度が落ちる。潮の流れが変わっているところに入ったのだそう。長い航海になると、オートパイロットにしても潮の流

れで船は方向が変わってくることも多いので、進路修正がたびたび必要となる。舵は右に切ったら青い線の入った中心にもどす。すると切った方向へゆったりと向きを変える。切ったままにしておくとう然右旋回を続けてしまう。自分でこんな大きな乗り物を動かすことはあまりないので、そこがまた魅力なのだ。

淡路夢舞台は 美しい緑の丘に

海から淡路島を見ると、淡路夢舞台が花博のときより樹木も成長して、緑に包まれた島へと変わっていた。設計者、安藤忠雄さんの意図どおり小鳥のさえずる森になっている。

淡路交流の翼港ターミナルに近づくと、アラツ、日本丸？ ちょっと違う？ 日本丸南淡号… 観光遊覧船だった。休日だったのであちこちで釣りを楽しむ人びとがいる。ヨット



トの係留浮桟橋にも、大勢の釣り人が並んでいる。釣り糸を巻きこむため竿を引き揚げてもらい接岸。

朝からのドシャブリ雨は出航から約1時間で淡路夢舞台に着くころには、ヨットパーカーを脱ぐほどの日差しと変わっていた。心地よい風を受けながら100万枚のホタテ貝を敷きつめた「貝の浜」も10000の噴水も美しくなつかしい。

リストランテ・N・ナーノでワインを傾けながらゆっくりとしたランチタイムを過ごす。

せっかく来たのだからと、1000区画の百段苑と淡路花祭が終わったばかりの風の庭園「プロムナードガーデン」へ。増田さんと鉄さんは。エレベーターもあるのに運動不足だからと階段にチャレンジ。息が切れながらややふらついて到着した。のんびり花散歩を楽しんでいると、早々とクルーザーに帰ってしまつた永井さんから「かえってこいコール」。

光る海に漂う心地よさ バカな話をしながら 遠慮なく笑って気分爽快

午後3時過ぎ、淡路島をあとに船尾に雨よけ、日よけのオーニングのついたベンチに座って、誰かが船酔い手前のゆれが気持ちいいんだよな、とか帰りの航路ではビールを飲んで

るのでみんな寝てしまふから、誰もスキップバーになりたがらないとか、先日、新西宮ヨットハーバーから堀江

謙一さんがサンフランシスコへと出航した話や、鹿島邦夫さんのコラーサ号が最初に大西洋単独横断を試みて、深江から出航したとき見送りに行ったのに、エンジンだったか飲み水だったかを積むのを忘れて帰ってきた話なんかしながら、のんびり須磨に向う。

牛窓や小豆島はときどき、たいて



当日は神戸まつりのイベントの一環で、ヨットレースとウィンドサーフィンのレースが須磨沖で繰り広げられていた



淡路交流の翼港ターミナルでは裏がわに海釣り公園がある。ちなみに貸し釣り竿はセットで700円、エサは300円

いは淡路島の飯屋港へおいしい魚を食べにいく。時間的にも疲れないし、仕事のストレスを解き放つのにちょうどいい距離なのだ。

中学のときからの友人たちとその家族や仲間たち、海の上で気心の知れた仲間とバカな話をしながら遠慮なく大声で笑って、気分が大きくなつてう〜ん、いい気分だ。

夜の10時に出航してクルーザーで宿泊。翌朝8時ごろに室戸の近くの牟岐大島へ着く逸出もたまにする



44フィートのフランス製ジャーヌー社「ELLE」号、80馬力、4機動、ターボ付き。軽油400ℓ（ドラムカン3本分）が入る

実はカメラマンを岸壁に残して何度も往復して撮影した



2シンクの台所では永井さんも男の料理に腕の奮いがいがある。「あさり」をバター炒めして、そのだしを残しておいてバターライスをつくるとうまいんだな〜と

命をかけた「きんぴら」の魚料理

毎日、和歌山から神戸まで鮮魚を直送

辰ヶ浜漁師の店「きんぴら」では、採れたばかりの魚を和歌山から神戸まで毎日直送している。オーナーの尾藤芳起さんは漁師でもあり、自ら漁に出ている。寝る間も惜しんで、究極の魚料理を追求する尾藤さんの情熱に迫ってみた。

睡眠時間は和歌山から神戸までの車の中でとる

新鮮な魚料理にとことんこだわった店が、三宮にある辰ヶ浜漁師の店「きんぴら」。オーナーの尾藤芳起さんは真正正銘の漁師さん。尾藤さんの一日は多忙極まりない。1日のスケジュールをざっと紹介すると、店の営業時間は、午後5時から午後11

時まで。後片付けを終えたと車を飛ばし、約1時間30分をかけて有田市（和歌山）まで飛んで帰る。午前3時には、有田市内にある辰ヶ浜から漁に出て、午後3時に帰港。その日に採れた魚を神戸に持ち帰り、午後5時からの開店にそなえる。「普通の魚料理をしていても仕方がない。神戸の人は舌がこえているから本物でないと満足してもらえない

い。睡眠は和歌山へ帰るまでの車の中でとります。みんな僕のことをサイボーグと呼んでますよ（笑）。神戸三ノ宮店は平成11年にオープン。かれこれ3年にわたり超人のような生活をつづけていることになる。もつとも霧や時化の日には、休養ということになるが、それを差し引いてもかなりハードな毎日となる。

霧で視界がわずか1m先しか見えなくなることも

午前3時。尾藤さんが所有する住吉丸で辰ヶ浜から出港する。主な漁場となる紀淡海峡は外洋に面しているので潮の流れが強い。もっとも危険なのが梅雨。霧に包まれると、ひどいときには視界が、わずか1m先しか見えなくなる。大型船が近づいていることが分からず、底引き網が大型船のスクリーンに巻き込まれ、漁船はひとたまりもなく転覆するか

らだ。尾藤さん自身も、幾度か危険な目に遭っていて、その時は震えが止まらなかったと話す。実際、尾藤さんの漁師仲間も2名が命を落とした。

底引き網漁は、水深によって、あるいは時間帯によって、網にかかる魚が異なってくる。取材で伺った6月頃だと、午前の早い時間には鱧、エビ、イカナダが、日中になると太刀魚や鰹が主流となる。この日は、太陽が昇りきっていたことから、水深50mに網をはり、潮ののって浮遊する太刀魚をねらう。網を打って待つこと約1時間、いよいよ網を引き上げると、その名のごとく、陽光を一身に受けた太刀魚が、キラキラと輝いている。大きいものでは1m近くもある。尾藤さんは手際よく、採れた魚を市場に水揚げされるものと、「きんぴら」へ配送されるものにとに仕訳していく。ほとんどの魚は



網の中には、活きのいい太刀魚がどっさり



辰ヶ浜(有田市)を後にする住吉丸

箕島漁業組合に水揚げされて、競りにかけられることになる。

紀州備長炭を使って、採れたての鮮魚を炭火焼き

午後3時頃、尾藤さんは辰ヶ浜へ戻ってくる。船でさばいて氷詰めされた魚は、尾藤さんが和歌山本店と神戸三ノ宮店へ配送する。午後6時前、尾藤さんは神戸三ノ宮店の搬入と同時に店に立つ。

付き出し、お造りの盛合わせ、鮮魚の炭火焼き、鮮魚のしゃぶしゃぶ、一品料理、雑炊がセットになったき

んびら炭火焼コース(6000円)が「きんぴら」のお薦めだ。さつきまで生きていた太刀魚は、丸々としていて肉厚。豊饒な海で育った魚と思わずにはいられない。七輪の炭も紀州備長炭を使用するほどのこだわりよう。

「うちで魚を食べたら他所さんでは食べられない。うちの料理は、命がけですからね」。尾藤さんの真剣な話にも頷いてしまう。その他にも、煮付け、鮮魚の天ぷら、にぎり盛合わせ、造り盛合わせなどのメニューがならぶ。どの料理には小細工は施



お店用の魚は船上でさばいて、すぐに氷詰めにされる。帰港と共に神戸へ



オーナーの尾藤芳起さんは、「霧には一番気をつかう」と話す

されておらず、魚は鮮度が勝負と言わんばかりに皿に盛り付けられている。身がしまった切り身は、食感をじっくり味わうことができる。今年4月からは、「わかやまラー

メン」なる逸品もメニューに加わった。和歌山中華そばは、紀州あせ寿司(鯖寿司)といっしょに食べることが多いそう。神戸になかったラーメンを広めたい。尾藤さんの情熱はとどまることを知らない。



太刀魚漁の場合、水深50mから底引き網を引き上げる



①神戸三ノ宮店は浜小屋を思わせる②わかやまラーメン(500円)とあせ寿司(1枚100円)③先程とれた太刀魚をしゃぶしゃぶ、炭火焼きでいただく

きんぴら

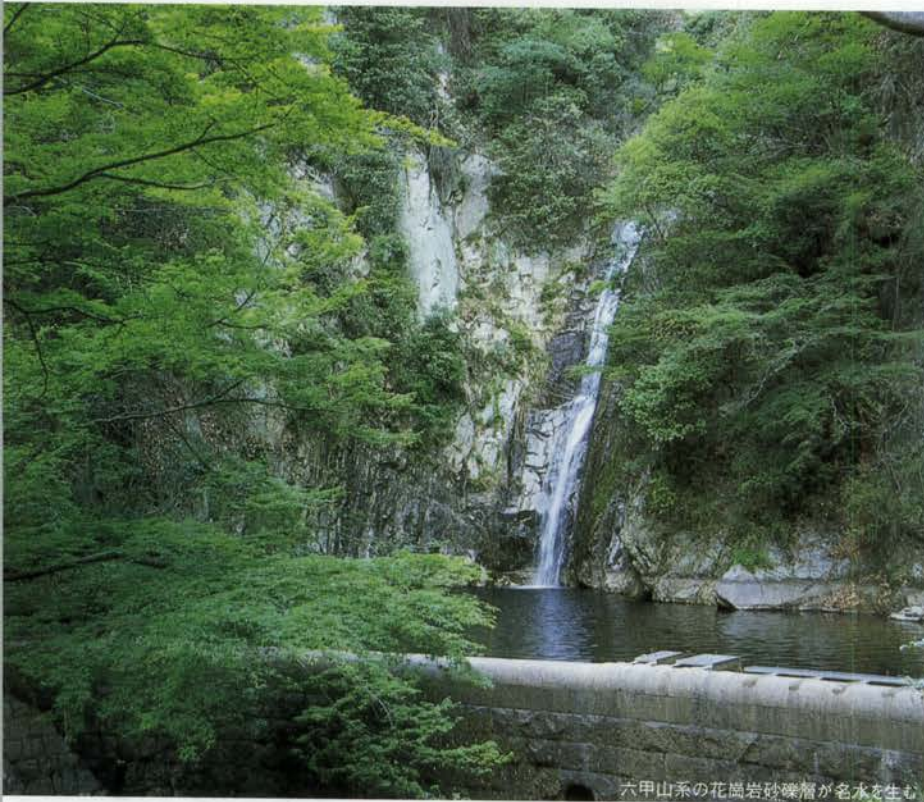
和歌山ラーメン きんぴら
神戸市中央区北長狭通2-11-5
グランドコースト1F
辰ヶ浜漁師の店 きんぴら
神戸市中央区下山手通2-1-5
ウィンベル三宮3F

☎078-331-6736



船乗りたちが愛した世界一の名水 六甲の地質が磨いた「神戸 布引の水」

六甲山系の花崗岩砂礫層やシルト層を通じてきた「神戸布引の水」は、まろやかな味をもち、腐りにくく、究極のミネラルバランスを保持している。六甲の地層に磨かれた名水は、「神戸クアハウス」で24時間いつでも飲むことができる。



六甲山系の花崗岩砂礫層が名水を生む

おいしく、腐りにくい名水
100円で持ち帰りもOK

かつて、神戸港に寄港した世界中の船乗りたちに「神戸港で積んだコウベ・ウォーターは赤道を越えても腐らず、おいしさも変わらない」と重宝がられたという「神戸布引の水」。

そのおいしさの秘密は、水が汲み上げられるまでに通ってきた地質と断層にある。六甲山系の花崗岩砂礫層を通った地下水はミネラル分、特にカルシウムが多く、そのまま飲



んでも、コーヒーや水割りにしてもおいしさは段違い。また、開封したまま放置しておいても長期間腐らず、炊飯に利用すると、ご飯が腐りにくく、おいしく食べられる。

神戸クアハウスの玄関前には、1回100円で、24時間いつでもミネラルウォーターが汲める水汲場が用意され、全国から水を汲みに来る人々で賑わっている。

**都心の名湯「神戸クアハウス」
ふたつの天然療養温泉**

「クアハウス」とは日本健康開発財団の商標登録であり、特に身体に有効な療養温泉にのみ与えられる名前。神戸クアハウスには、重曹泉と硼酸泉のふたつの天然療養温泉が湧き出している。このふたつの温泉は、疲労回復はもとより、疾病予防にも効能があり、飲用することによって慢性消化器病にも効果がある。



神戸クアハウスの南館にあるドライブスルーの水汲み場



舞台等で活躍する丹阿弥谷津子さんも「布引の水」を愛飲

『お水は基本ですもの』

「お水は基本ですもの」と、この間も誰かが楽屋でいきました。舞台の幕間に私達はよくうがいをします。そしてあと、冷蔵庫に冷たくしてある水を、ふたくち、みくち飲み、次の「出」を待つのです。私はおかげさまで、主人・金子信雄のお友達、神戸の大西様から、ずっとお送り頂いている「布引の水」を、家でも仕

丹阿弥谷津子さん(女優)

事先でも使わせていただいております。はじめてのお水を飲みました時「あつ、やはり、おいしい」と思い、「布引」というのは、昔から有名なあの「布引の滝」の「布引」なのだと思います。そして、その水の源を思い浮かべました。母の故郷につながる話か思い出されたのです。祖母の先祖が「みわかれ」という山の土地に縁があるという話を、以前に、従兄から聞いたことがあったのです。「みわかれ」とは「水分れ」ということで、丹波の山上に降った雨が、そこから分かれて、日本海と瀬戸内海に流れ下るといふことなのだ、従兄は、夏休みに東京から京都へ遊びに来た小学五年生に兄さんぶつたのです。自分達の共通の先



重曹泉(上)重曹泉(左)のふたつの温泉が湧いている



おいしくて体に良い、重曹泉で炊いた「温泉豆腐」。館内レストランでいただける(430円)

サウナ、発汗・瘦身リラックスルーム、半身浴風呂、ジェット風呂など、館内にはさまざまな施設があり、シャワーなど全館に、ぜひたくにも「布引の水」のミネラルウォーターが使用されているというから驚き。肌や髪に、ミネラルウォーターと天然温泉がやさしく作用し、身も心もリラックスできる。

三宮から徒歩8分、名水と名湯をゆつくり味わってほしい。

天然温泉のご案内
入湯料/大人920円 小学生以下620円
回数券(11枚綴り)/9000円(税別)
貸しカウン(カウン・タオル)/4600円

祖の話と一緒に地理についても教えたのですから。(その従兄は仕事からはもう身を引いたものの元気でおります。)それにしても、「布引の水」とはもう一つご縁が深いようなお話になりました。

環境汚染の問題の多い近頃です。なんとか「山紫水明の日本」が遠いものになり過ぎないようにあってほしいと切に願います。孫たちも飲ませて頂いているこの「お水」。ずっと飲みつづけられますように。「お水は基本ですもの。」

●丹阿弥谷津子さんの出演
・NHK第一連続ラジオドラマ「みんな大好き(日曜19時15分)」
・7/22「マイフェアレディ」博多座
・10/11「女ごころは夢ごころ」名鉄ホール
・10/19「11/24」丹阿弥岩吉と丹阿弥丹波子二人展「水上美術館」

天然療養温泉・ご宿泊・神戸布引の水 神戸クアハウス



神戸市中央区二宮町3-10-15
ご予約・お問い合わせ
☎078-222-3755
24時間/年中無休



1回100円の水汲み場

「神戸布引の水」全国発送もOK

月刊神戸っ子サンバチーム & コパカバーナ



第32回神戸まつり

緑と海そして愛
神戸まつり
32



あなたの「キレイ」がスタートです



自分もきれいに、もっと美容のことが知りたくて、ヤマノに出会い20余年になります。営業からエステティシャン、講師、そして独立という夢がかないました。
多くの女性に、美のお手伝いと思って、毎日お客さまとの会話を楽しみながらお仕事をしています。
生涯現役の美容のお仕事を、もっとたくさんの人に伝えたいと思います。

素肌の美しさを呼び覚ます
自然派エステ「どろんこ美容」



●エステ教室生徒募集

美容の技術を身につけて、あなたの新しいライフスタイルを!! 80年の美容実績を誇る「技術」と「教育」のヤマノグループが、あなたをサポートします。
エステティシャン、サロン経営とさまざまなライフプランに合わせたコースを設定しています。
お気軽にお問い合わせ下さい。

山野愛子どろんこ美容元町駅前店
神戸市中央区元町通1-13-12
神戸プラザホテルB1
10:00~19:00(受付)
定休日/月曜・祝日
要予約



神戸っ子読者お試しキャンペーン
集中トリートメントのノーマルコース(60分)
+プロによるメイクアップ
1回 ¥6500 → 3回 ¥10000
晴れの日のためのブライダルコース(120分)
1回 ¥17500 → ¥10000

ジョン・ロバート・パワーススクール

女性の魅力をひき出すフィニッシングスクール

パワースは真の大人の女性として必要な知識や教養、エレガントを身につけるためのフィニッシングスクールです。1クラス10名までの少人数制によるきめ細かい指導で、外面・内面あらゆる角度からあなたの魅力アップを実現。8つのプログラムと3つのコースをご用意しています。

磨かれた女性への8つのプログラム

◆外面を磨くために
メイクアップ
ヘアスタイル
ファッション
美しい身のこなし

眠ったままのあなたの「きれい」を4人のプロの先生がひき出します。似合うカラーの診断やプロカメラマンによる卒業写真撮影も。

◆内面を磨くために
和洋のマナー
ボイストレーニング
会話術
自己表現

あなたの魅力のベース、豊かに自分を表現する内面を磨きます。ホテルでの食事マナー実習や校長とのカウンセリング、卒業パーティーなど。

◆すべてを磨くために
外面、内面(左記)の
全8プログラム

パワースのポリシーは、外面、内面トータルに磨かれた女性を育てること。68時間をかけてすべて学びます。



(写真上) マナーの授業
(写真左) メイクアップのレッスン

説明会

問い合わせ・お申し込みはお電話で…。日時の不都合な方も随時授業見学を実施。

●大阪校 随時開講
6/18(火) 14:00~18:30~
6/22(土) 14:00~

John Robert Powers

[大阪校] 〒542-0081
大阪市中央区南船場4-4-3
(御堂筋アーバンライフビル9F)
☎06-6241-0773

<http://www.johnrobertpowers.com/osaka/index.html>

[神戸校] 〒650-0002
神戸市中央区北野町1丁目
(新神戸オリエンタルホテル文化
教室エリオ内)
☎078-291-1128

[神戸校]



Mademoiselle du Kobe
神戸のお嬢さん

「キャッツアイ」の輝き

田中綾さん
フライング宝石店オーナー

田中家とは先代が存命中からのお付き合い。とても可愛らしい少女の綾ちゃんが、小走りで宝石店の奥に駆け込むのをよく見かけた。

商家の娘さんらしい決断力、エネルギッシュな実行力は華奢な容姿からは想像もできない。また、彼女を知る人の多くはブランドものを身に付けない爽やかな素の綾さんに好感をもつ。シンプルだけど奥深い輝きと魅力を秘めた「キャッツアイ」を連想させるレディーに成長された。開業以来、綾さんデザインのコンテナポラリーなジュエリーは北野界

限でファンも多く、すこぶる評判が良い。「宝石に魅せられた一家」が磨き上げた新時代を予感させるヌーベルな輝きを放つマドモアゼルだ。



推薦者
三浦 明定
北野異人館協会会長



あたたかな光に満ちて

重水由紀さん
ソプラノ歌手

好きなことは何ですかと聞けば、料理をつくることとか、みんなとワイワイ遊ぶことだそうです。彼女のいるところ、常に大勢の人あり。

垂水生まれ、垂水育ち。武庫川女子中学校、高校、大学音楽学部と純粹培養された、生粋の武庫川育ちで

もあります。

明るさ、大らかさ、その存在感を感じるお嬢さん。歌を続けたくて大阪音楽大学の大学院へ、卒業演奏で憧れのポエムのミミを演じ、今春卒業。今はオペラ歌手を目標に猛勉強中。関西の大物歌手の人たちが彼女を〈和〉のなかにいれてくれ、勉強させてもらっていることも超ラッキーであります。私の門下生ではあ

りませんが、豊かな才能の持ち主です。12月1日にうはらホールで神戸フレッシュユコンサートに出演します。ぜひ応援してやってください。



推薦者
小村 亮三
武庫川女子大学音楽学部教授



特別展

向井潤吉生誕100年記念

向井潤吉の絵画と写真

絵画が語る風景、
レンズが見た風景

6月22日(土) → 8月18日(日)
同時開催: 収蔵作品展Ⅱ

向井潤吉は、戦後40年以上にわたり全国を巡り歩き、豊かな日本の自然の風景を描き続けた。生誕100年を記念して開催される本展では、世田谷美術館が所蔵する、民家をモチーフとした油彩・素描作品約105点を展示し、向井が旅の途中に撮影した各地の写真を初公開します。



向井潤吉「峠の下の村」1978年 世田谷美術館

■開館時間……午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日……毎週月曜日

■入館料

	当日券	団体券	前売券
一般	700円	550円	600円
高大生	500円	350円	400円
小中生	300円	150円	200円

※団体は30名様以上 ※前売は市内プレイガイドなどで発売

主催/神戸市立小磯記念美術館、神戸新聞社 協賛/富士写真フイルム株式会社
協力/日本民家再生リサイクル協会 後援/サンテレビジョン、AM神戸

●講演会「向井潤吉の絵画と写真をめぐって」

講師……橋本善八氏(世田谷美術館学芸員)/定員約80名
とき……7月14日(日)午後2時～3時30分

●解説会

とき……毎週土曜日 午後2時～約30分間
当館学芸員によるスライド解説

神戸市立小磯記念美術館

神戸市東灘区向洋町中5-7 TEL.078-857-5880
JR住吉駅・阪神魚崎駅のりかえ六甲ライナー「アイランド北口」駅下車西へ徒歩すぐ

いつまでも
お父さんのサポーター

さんちか父の日^{6/16}

http://www.santica.com **santica**
The New World of Kids' Fashion

15[±]16[Ⓜ] お昼12:00より先着2,000名様日本サッカー有名選手フィギュアプレゼント 各一人様1個限り

さんちか名店会 神戸市中央区三宮町1-10-1 ☎078(391)3965 ●営業時間/AM10:00～PM8:00(飲食店はPM9:00オーダーストップ) ●定休日/第3水曜日

Jewelry Designer in KOBE 期待のジュエリーデザイナー

吸い込まれてしまいそうなほど

深い輝きに満ちたジュエリー。

ひとつひとつの石に封じ込められた夢、憧れ…

女性たちの見つける長い長い終わらないストーリー。

そしてここにも、

ジュエリーに触れる喜びに魅せられた若きデザイナー。

輝かしい未来を秘めた原石たちをご紹介します。



高田利香さん

◆株式会社鶴王勤務

1975年神戸生まれ。甲南女子大学文学部卒。東京三菱商事に勤めながら「ヒコ・みずのジュエリーデザインカレッジ」にてジュエリーデザインを学ぶ。帰神後はG.I.A.デザインスクールへ。99年父親の経営する(株)鶴王入社。オリジナルウエディングで定評のある「利宮館」とともに展開する、ブライダルを中心としたオリジナルフルオーダージュエリーが人気。

ト アロードにある宝石店「GAO」。利香さんのアイデアで1階はカフェに、2階が小さなサロンになっている。
手掛けるのは、高品質の石を使いながらできるだけ低価格で提供する、提案型のオリジナルジュエリー。
「ジュエリーそのものよりもトータルバランスで、このひとが身につけるとしたら...と想像し

ながらデザインします」。ダイヤにはプラチナという発想から、もっと気軽に楽しんでもらうジュエリーを目指して、高価な石にもホワイトゴールド、シルバーを積極的に組み合わせる。
「夢は壮大に、ミラノに小さなお店が持てたら素敵。あくまで小さな、ね。私の創ったものをたまたまのひとが付けてるより、そのひとだけのものを創るのに、幸せを感じる」



ペンダントトップにもなる蝶のフローネと指に沿うように工夫されたリング(いずれもシルバー)。



天然の淡水真珠をホワイト・イエローそれぞれのゴールドとダイヤで一本の花に見立てたネックレス (AGTAコンテスト入賞作品) 「留学中サンディエゴで見たカラーの花畑に感動して描いた」デザインをもとに制作した。

全米のプロが競って目指すAGTACコンテストの第31回スベクトラム・アワーズのイブニングウェア部門1位入賞。デザインを学んだのはアメリカ留学中の8週間だけというから驚かされる。「生まれたときから真珠のなかで育った」彼女だけに、その下地の底力だろう。北野坂の真珠店「木下真珠」の末っ子。

ジュエリーデザインは小さい時からの夢。「昔から、母があこや真珠の素敵なプロチがないと言っていたのがずっと耳に残っています。私にとって一番の審査員である母に、合格をもらえるようなデザインが目標」。日常使いには難しいとされるあこや真珠。その新しい魅力を伝えられるようなデザイナーになりたい。

※AGTA (アメリカン・ジュエリー・トレード・アソシエーション)

木下左保さん

◆株式会社木下真珠勤務
東京外商会アドバイザー

1975年神戸生まれ。関西学院大学仏文学科専攻、大学院では仏言語学を学ぶ。卒業後、アメリカG.I.A.に留学し、宝石鑑定、彫金、デザインについて学ぶ。2001年12月帰国。今春から(株)木下真珠東京本社に入社。将来の夢に向かって、現在は営業から勉強中。

横田昌博さん

◆株式会社金子真珠店
商品企画制作課デザイン室勤務

芦屋市生まれ。金沢美術工芸大学美術科
油画専攻卒業。(株)金子真珠店入社、広告
宣伝部配属。その後商品企画課デザイン
室配属。97年より毎年、新作ジュエリーコ
レクションを専任で手がけている。東灘区
在住。

好きなパールは南洋の白蝶真珠。秋の
新作ジュエリーコレクションでは、それぞ
れのテーマにそったジュエリーを制作。



「金^子真珠」を一流のブランドに
したいというのが金子真珠店
の夢であり、横田さんの夢でもある。
9年前に金子真珠店デザイン室に
配属され、ジュエリーデザインを学
び始めた。以後、毎年の展示会では、
金子真珠の「顔」ともいうべきオリ
ジナルジュエリーを専任でデザイン
している。ジュエリーだけでなく、
「お客さまが五感すべてでお買い物
ができるようお迎えしたい」と、商
品・ディスプレイ・店をトータルに
デザインすることも目標。
やはり自分が手がけたジュエリー
を身につけた人に出会うのが楽しみ
だという。「その方のもつスタイル
に、ジュエリーがとけ込んでいる、
デザインがその方のものになっている
のを拝見したときは、デザイナー
冥利につきますね」。

宝石の透明感を表現するため石と石の接触部分に特別な研磨を施したリング



現

在は80%の作品が逸品もの、しかも高価なジュエリーを製作する立場にある朝倉さん。春秋年2回行われるコレクションは、お客さまとふれあうことのできる貴重なチャンスと語る。

「ひとつひとつの石をじっと眺めていたら、例えば青い実をついばむ小鳥と木々の風景が見えてきたり...」。素材のもつ魅力を探る

行為によってデザインのスピリットが与えられるという。

朝倉さんはほとんどのデザインを手で描く。「微妙なニュアンスに、細工者の個性も加わってひとつのジュエリーが生まれる。そうして母から娘へ何代も受け継がれていくジュエリー。ひとからひとへ、温かさが伝わるジュエリーを創りたいですね。」



グランプリ受賞作品「The Red and the Black」(ダイヤ・WGK18・うるし・黒蝶真珠、細工者:小林保充)は7月初旬にタヒチでの最終審査に日本代表として出品される。

朝倉亜紀さん

◆田崎真珠株式会社
商品企画デザイン部
神戸企画デザイン課勤務

1990年女子美術大学芸術学部絵画科卒。田崎真珠デザイン室入社。91年第19回ダイヤモンド・デザイン・コンテスト入賞。コレクション・コンテストでは常に新しいデザインを生み出す発想力のひと。本年タヒチアンパール・トロフィー・2002・ジャパングランプリ受賞。





Hair Takashi

ASHIとして、神戸の青谷通りでサロンを持つアーティスト。二つの顔をインタビュ。

HAIR TAKASHI VOCAL TAKASHI の二面性

「ヘアーとヴォーカルどちらが先ですか。」

「ヘアーが先かな。子共時代を振り返るとヴォーカルが先ですね。」

5月17日の夜。北野クラブのレストランに静かに流れたスタンダードジャズの調べは、ピアノ十川千江子、オーボエ延原武春、ヴォーカル・TAKASHI(永海孝)、「Stomp in KOBE」トリオの神戸公演正式デビュー。奈良の町家で3年、京都リーガロイヤル、そして地元神戸から「スタンダードジャズ独特の美しいメロディーと歌詞を大切に」と、懐かしさと、異色の出会いに新しさを感ずる。いかにも神戸スタイルの発信といえようか。

ジャズピアノの重鎮十川千江子と、室内楽の「日本テレマン協会」を主宰する指揮とオーボエ奏者・延原武春をバックに歌うヴォーカルTAKASHIは、HAIR・THK

父が賀川豊彦さんと一緒に神戸生協を創った人で、浦井組合長の下で専務と二人が神戸生協の常務理事だったんです。父(正一)は戦後まもなくから苦労した、もの凄いな真面目人間。一円が間違っても夜の11時頃までかかって合わせる。朝礼が皆がクリスチャンだから讃美歌を歌うとき、一人で軍歌を歌っていたという(笑)。兄は父に似て真面目で、次男のほくは、メチャメチャゴンタ(笑)。

上筒井小学校時代に、小川先生がボーイソプラノを集めて合唱団を創って、ほくも選ばれて歌って、凄く楽しかった。シアトルと神戸が姉妹都市になった時、歌の交歓を行いましたし、ラジオ関西で岡女堂のCMソングも唄いました。一粒ホイとかいって(笑)。

「大阪教育大学美術科卒」ということは、絵も好きなんですね。

もともと絵を描いたり、ものを創ったりが好きで、大学をサポートはアルバイト(笑)。

学校を出てヘアーなら独立できるかなと大阪の有名な美容室のローズメリーへ住み込んで、安藤木大(シゲオ)、寿美子夫妻のもとで修行しました。もの凄いな厳しいお店で、全日空ビルの9階にあった会員制のクラブで、関西の高級なお客さまばかり。

美容室を髪結いさん的に見ていたほくには、プライドを持って仕事が出来ないようにになりましたし、一生懸命やればこんな風になれるんだというお手本でしたね。

「それからアメリカへ行かれたんですか。」

ええ、アメリカの美容学校へ半年、一年はロスのビバリーヒルズにある「ラシエネガメルローズ」エディキャロルというカットで有名なお店で働いて、ほくが25歳の頃です。

サッスン全盛時代の彼はサッスン系。それを見たということでバリ仕込みの安藤先生の凄さを再確認しました。次ぎはニューヨークの須賀勇介のところへ、友人の就職が決まっってしばらく手伝ったんですが、



Hair Takashi

神戸市中央区熊内町2丁目5-10
☎078-242-5787

森英恵さんと組んで東70丁目のビューティサロン。日本風の竹を使ったすてきな店でした。次に須賀さんが、バーグドルフグッドマンデパートの最上階の大きな美容室をまかされて、彼が40歳位ですね。

「須賀さんから学んだものは？」

スター性。自分を売り込むのが上手い。ヴォーグやバザーなどの雑誌の仕事をして、自分を売って有名なお客様を獲得する。彼は週に一回しかお店に出ない。高い料金でパツパツと仕事をする。それからバリへ半年。方々の美容室で勉強しました。ほくはバリが好き。毎年正月はバリです。

美容界では有名な話ですが、日本で初めてシザースカットを神戸で始

Hair

Takashi

Vocal

Stomp in KOBE デビュー 北野クラブで



左から延原・十川・Takashi

めた有馬久六が外人相手の北野・山本通りにローズメリー美容室を開いて親戚の安藤木大が鹿児島から修行に来たという、サロンワークの元祖。——神戸の青谷通りでお店を開けたのは。

27歳でアメリカから帰ったとき母（ツネコ）が、ええ年なんやから独立しろと。もう一度渡米するつもりが、この青谷通りに新しいビルが出来ているのを見て、山が見える場所が気に入って開店しました。が、母は二年目に亡くなりました。

以来25年近くやっていますので、ヘアにさわっていないと駄目ですね。ちよつと旅へ出ると、早くカットしたいナ、ブローをしたいナ。身体がそうなってしまっているんですね。

神戸での仕事は最高！ お客様はうるさいけれど洗練されている。ヨーロッパの雰囲気がありますね。

神戸は最高！ 青谷通りはパリの匂い

——延原先生との出会いは…

絵の勉強をやっているところで出会って、延原さんは絵も才能がある、凄いですよ。それから悪友というか、ガンガンしゃべりあえる相棒というか（笑）。ほくはサビス業で、お金

を頂くところでは真剣勝負でしょ。ストレスがたまる。今日は髪の色が染が明るすぎたとかパーマが当たりすぎとかお客様にはいえない。

彼はアーティストだからそこを繊細に受けとめて、またしゃべり合えるベストフレンドですね。

——十川千江子先生とは…

ヘアだけでなく唄いたいと思つたとき、亀の井亀井堂の中島夫人が、十川先生を紹介して下さい、パッと出会った瞬間に、この先生ならついていける。人間的にも、音楽的にもステキな先生で、ついて行こうと思っていますね。

——ステキなバックで歌って気分いいでしょ。

苦しいのなんのって（笑）。早う



北野クラブにて

終わってほしい。後何曲かな。この歳になって何でこんなに気い使わんならんネン（笑）。乗り切るとチョット喜びはありますね。

——チャリテイで「美しい水を一人でも多くのパングラッデッシュの子供たちに…」とありますが。

お客様に関西タイムアウトの松永さんがいらして、パングラデッシュに何度か行かれて、井戸とトイレを供給されていることに共鳴してのチャリテイなんです。

——震災の時ヘアサロン流行しましたね。

全然お客様をするつもりではなかったのに、避難所からもゾロゾロ押すな押すな（笑）。せめてでも髪をおしゃれにという神戸の女性の願いがあふれていましたね。いい思い出です。

——延原先生から見たTAKASHIは…

延原 たえず何かに憧れているし、追いかけている。やりだしたら徹底的。正直。これは一番大事なことですよ、アーティストにとつて…

——TAKASHIの夢は…？

歌を上手に唄いたい（笑）。それと、この六甲山の見える青谷通りをプロムナードとして、東京の青山通りのように売り出したいですね。

■神戸洋菓子対談

文化として根づいた神戸の洋菓子

兵庫県洋菓子協会会長に就任した比屋根毅さんと、毎年恒例の「洋菓子KOBEX展」総合プロデューサーの村上和子さんに、洋菓子のまち神戸への夢を語っていただきました。

比屋根 毅（兵庫県洋菓子協会会長・株式会社エーデルワイス代表取締役）

村上 和子（洋菓子KOBEX展総合プロデューサー・ジャーナリスト）



エーデルワイスグループのフレンチレストラン「カフェ ルビアン」(大丸芦屋店)にて

洋菓子KOBEX展 15年を振り返って

村上 月刊神戸っ子の小泉さんの働きかけがきっかけではじまった洋菓子KOBEX展も、今年で15回目になりました。洋菓子はハイカラ神戸を代表する味。旧居留地の中にある大丸神戸店さんの依頼を受け、「味の名匠・技のエスプリ」をテーマにスタートしました。大丸さんの方では、はじめは和菓子展を考えていたようです。第1回目が大成で終わり、担当者の方が「大丸の発展は旧居留地がキーワードですね」と、大丸の旧居留地展開について改めて確認をしていたことを憶えています。みんないろいろな人が織りなしながら、次の広がりをつくりつつ15年が経過したという気がしています。

比屋根 ひと言で15年と言っても大

変な歴史ですよ。

村上 消費が伸びて質も高くなってきたこの15年を、丸ごと見つけ続けてきた感があります。

比屋根 震災のときに途切れるのかと思っただけですが、大丸にできたお客様の行列を見てとても勇気づけられましたし、パワーを感じましたよ。

村上 震災の日から80日目の開催でした。周りでは震災ルックが当たり前前の時期でしたから、洋菓子展にお洒落をしてきて、作品をくい入るようにならなくて見えてくださっている人々たちを見てみると、別の世界にいるような錯覚に陥っていましたよ。地震のようなとんでもないアクシデントに見舞われたからこそ、ひとり一人のパワーがまちのパワーになっていくということを実感できた15年でした。

比屋根 震災当時のことは、あまり

明るいとは言えない現在にも、当てはめることができると思います。夢があり、華があるものを、皆さん求めているのではないのでしょうか。

洋菓子への憧れが文化として

村上 私は「感動」と「憧れ」をマーケティングのなかで常に考えています。リースナブルであったり、健康に良いものであることもとても大切なことなのですが、それだけでなく生活のなかに入り込みすぎて、わざわざ足を運んで来てくださるまでにはなかなかありません。

比屋根 私がすごく素晴らしいと思うことは、文化が地域で根付いて発展していくことです。洋菓子も神戸の歴史のなかで、文化として根付いてきたものだと思います。

村上 昨年一昨年も洋菓子KOBEX展には約5万5千人、今年は6万2千人のお客さまに来ていただきました。とにかくすごかったですね。テイクアウトのショップだけで25社が参加。売上げも去年の約2倍もあつたそうです。15年前から考えるとこの洋菓子KOBEX展も、まちの魅力として定着してきたことを強く感じます。訪れた人が毎年とても楽しみにしていますと言ってくたさいま

す。広域的に広報などを一生懸命頑張ってきたことありますが、今年はお客様が確実にリピーターとなっていることを実感できました。

比屋根 店でもイベントでもそれがいちばん嬉しいことですよ。

村上 そもそも洋菓子KOB展は『洋菓子天国KOB』という本の出版がきっかけでした。そして10周年のときには『KOB洋菓子物語』という本を。そして今回出版したのが『神戸発憧れのパティシエと洋菓子たち』という本です。これまでの集大成的な意味合いを込めて、洋菓子神戸の魅力を満載しました。



大丸神戸店で5月2日～7日に行われた第15回「洋菓子KOB展」

たが、とてもわかりやすい上に、つくられた方の心が伝わってくるようでした。

村上 15年間関わってきましたが、今回は、お菓子づくりの歴史や、まち、そこに関わる人々にも脚光を当てたかったのです。ですから兵庫県のみちづくりのなかで頑張っている人々を、「まちづくりとスウィート」という形でご紹介もしました。限られた時間の中で、節目になる15回目の洋菓子KOB展に間に合わせなければ意味がないと思い、かなり大変な思いもしました。

比屋根 洋菓子への情熱が本当に伝わってきますよ。そういう情熱は持ち続けなければならぬし得ませんからね。

村上 そうですね、一途で強靱な精神とエネルギーがなければできませんよ。

「洋菓子のまち神戸」への期待と大きな夢

比屋根 今年から兵庫県洋菓子協会の会長に就任することになったのですが、毎年20人ほどの若い人をヨーロッパ研修に行かせようと考えています。海外の文化に触れて帰ってきた若者は、顔つきや話し方もたくましく変わって帰ってきますからね。

村上 色の使い方や好みまで変わりますよ。センスが磨かれて帰ってきますよ。

比屋根 神戸で洋菓子づくりをしてきて、私が常に心がけてきたことは、ハイカラ神戸にふさわしいお洒落な店づくりです。そしてこれからは他企業との共同生産などもどんどん進めていきたいですね。同業同士が、良い意味でライバルとして競争しつつ共生し、共に力を合わせていけるような雰囲気が必要だと思うのです。各企業が垣根をつくっている場合ではありません。神戸のお菓子業界でも、思い切った大改革をしていきたいと思っています。

村上 比屋根さんと出逢った頃から考えると、それができる時がやっと来たという感じがしますね。

比屋根 厳しい状況もありますが、最近では若い人たちが盛り上がりつつありますよ。

村上 いつの時代でも新しいものは生まれてきますから、常に前向きでいるしかないですよ。ここまでの何年間かは洋菓子神戸が一気に認められてきて、神戸のお菓子屋さんや東京やデパートのイベントにもよく招かれています。洋菓子のまち神戸を発展させるためには、さらにこの先数年が大事だと思っています。



職人の技を感じさせる繊細で美しい洋菓子

在の評価におこなうことなく、もう一度原点にかえって、お菓子づくりを見つめ直し、ますます精進していったほしいと願っています。

比屋根 主役は現場で動いている者たちですから、新しい時代の新しい波を起こしていきたいですね。



「神戸発憧れのパティシエと洋菓子たち」神戸新聞総合出版センター(本体952円+税)